

動物実験と実験動物施設が抱える明日への問題点

池田 卓也

グラクソ・スミスクライン（株）

「動物実験の明日を考える」というテーマを踏まえて、動物実験を実施し同時に実験動物施設を運営管理する立場から、動物実験が行われる基盤である実験動物施設について話題を提起したいと思う。特に多くの施設が直面しているであろう問題について整理し、議論する事により、明日の動物実験と動物施設のあるべき姿を探る事が出来ればと考える。

いま実験動物学は、大きくかつ急激な変革に直面している。これは、単に実験動物を用いた研究内容とその方向性が大きく変化しているのみならず、実験動物を取巻く社会環境（動物愛護運動の高揚・動物福祉と倫理・情報公開と説明責任・法律の改正・動物の特許・労働安全衛生の強化等）も、大きな転換期を迎えている。この変革に対応すべく、動物実験とその基盤である実験動物施設にも大きな変革が求められて来ている。

我国の実験動物施設は、実験動物の飼育管理、或いは実験技術や研究のレベルでは、高いレベルを保持していると思われる。しかしまだ多くの点で歴史が浅く、実験動物施設の運営管理では、経験と感による部分が多々あり、システム化や分業化が不十分な事などに起因する多くの問題を抱えている。そのため、高いレベルにある個々の経験や技術が、必ずしも有機的に結びつかず、動物実験を行う基盤としての施設が十分に機能していない。また研究の為の良好な動物実験環境を提供するという観点からも、研究を直接あるいは間接的に補助する系統的な組織の整備と分業化が、欧米に比してまだ不十分な点が多く、今後体系的な整理が必要である。さらに実験動物施設の運営管理に携わる人材の層が薄く、実験動物を用いた研究の急激な変化と、実験動物学を取巻く社会的な変革に、必ずしも適切に対応出来ていない現状がある。

このように動物実験を行う環境と言う点で、現在の実験動物施設は多くの問題を残し、産官学連携の促進や国際的な競争あるいは国際化等の、実験動物学に対する社会的な要請に対して、必ずしも十分な対応が出来ないばかりか、時には残された多くの問題が障害ともなっている。

今後、実験動物施設に関する周辺技術や知識の拡充と共に、実験動物の倫理や福祉、安全衛生、獣医学的管理等を含めた諸々を体系的に整理し管理していく、「実験動物施設管理学」と言えるようなマネジメントの手法の確立が望まれる。また同時に、動物実験を支える人的資源の育成と教育が急務であると考え。これらの事により実験動物の飼育管理等の質的向上と相俟って、動物実験の環境基盤が整備され、その結果より質の高い研究が行なわれる事になると思われる。またその事は、実験動物学に携わる我々が期待されている、社会的ニーズに答える事にもなると考える。